

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 9月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	4673600104
法人名	社会福祉法人 市比野福祉会
事業所名	グループホーム きままの郷
所在地	薩摩川内市樋脇町市比野3244-1 (電 話) 0996-38-2700
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成21年8月28日

【情報提供票より】平成21年7月15日記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 9 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4)利用者の概要(7月15日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	7 名	要介護2	7 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 88 歳	最低 76 歳	最高 99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	市比野記念病院 田中歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

薩摩川内市の温泉豊富な市比野温泉の閑静な住宅地に立地している。母体となる医療法人の歴史は長く、地域の方々の信頼も厚く、グループホームに対しても、地域の中の認知症介護の中心として期待されている。また、理事長の「最後まで安心して暮らして欲しい」という思いから職員の人員配置、職員育成、介護計画等について配慮され、かかりつけ医との連携も密にとっており、医療面においても家族の信頼は厚い。ホームは木造のけい藻土の壁と工夫されたガラスにこまれ、門前には広々としたベンチが設置されている。敷地内には足湯が用意され、地域の交流の場として活用されている。建物からも設立者の思いが伝わってくるホームである。
--

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。前回の改善課題については職員会議で改善策を話し合うなど前向きに取り組んでいる。家族へはコピーを配布し、玄関にも掲示し、共有が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各々の職員が分担して考えたものをまとめたもので、昨年と状況の変化を確認し、サービスの質を向上させるために有効に活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、家族の代表・自治会長・市・在宅介護支援センターの参加があり、議事録より、事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などを今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりや金銭管理は、毎月書面で報告しており、個々に合わせた報告がされている。また緊急時や細かい対応については、随時電話等で家族と相談、話し合っている。家族会は年2回開催され、日ごろから職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努め、家族会の際はもとより、訪問時の会話の中から要望や苦情をくみ取るようにしている。出された要望や苦情の内容は、介護日誌や伝達ノートに記入し、共有され解決に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、定期的に広報誌の配布や散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけ、中学生との交流、地域行事への参加などにより関係づくりに力を入れている。また冬場にはホーム敷地内にある足湯を開放し、交流の場として提供している。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を基本に「地域に開かれたホーム」と、地域と密着したホーム作りをホーム理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時にホーム理念を唱和し、玄関やホールに掲示し、毎月の個人別おたよりの中にも明記している。ときに管理者や事務長より会議等のなかで理念の実践について話があり、事業所全体で理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、定期的に広報誌の配布や散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけ、中学生との交流、地域行事への参加などにより関係づくりに力を入れている。また冬場にはホーム敷地内にある足湯を開放し、交流の場として提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。前回の改善課題については職員会議で改善策を話し合うなど、前向きに取り組んでいる。家族へはコピーを配布し、玄関にも掲示し、共有が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族の代表・自治会長・市・在宅介護支援センターの参加があり、議事録より、事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などを今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	頻繁に市担当窓口などへ事務手続きやその他の機会に訪問し情報交換を行い、入所希望者や選挙等の相談など協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや金銭管理は、毎月書面にて報告しており、個々にあわせた報告がなされている。また緊急時や細かい対応については、随時電話等で家族と相談、話し合っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年2回開催され、日ごろから職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努め家族会の際はもとより、訪問時の会話の中から要望や苦情をくみ取るようにしている。出された要望や苦情の内容は介護日誌や伝達ノートに記入し、共有され解決に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を考慮し、離職を防止するように努力している。異動がある時には引き継ぎ期間を十分に設け、情報の伝達と利用者の混乱を防ぐための対応をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度に応じた指針を含めた年間研修計画を法人単位で作成しており、それに沿って研修を進めている。外部の研修には、受講料の法人負担や、勤務調整等の配慮をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内だけでなく地域のグループホームと交流会をつくり、相互に訪問したり、研修会で意見交換を行いながらネットワークづくりやサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に本人や家族にできるだけホームの見学をしてもらい顔馴染みの関係を作っている。施設、病院からの入居の場合は担当者との連携をはかり、施設、病院で作成されたサマリーなどを参考にしながら本人がホームに馴染みやすいように気を配っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに過ごす中で得意なことを教えてもらったり、行事や言い伝えを覚えてもらうなど学んだり支えあう関係を築いている。また、運営推進会議の中で、「高齢者の経験の豊富さを生かす時代」と強調して、職員が教えてもらう体制づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き、インテークシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月計画作成担当者を中心に検討し、利用者主体の介護計画を作成している。職員の気づき、家族の意見の確認は介護計画作成時だけでなく日常的に行うようにしている。主治医には計画作成前に意見をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見、要望を取り入れ、状態の変化が生じた場合、そのつど見直しを行っている。毎月のカンファレンスで介護計画の見直しの必要性を全職員で検討し、必要な場合は緊急会議を開き検討している。評価はケアプランサービス計画表を活用し月に一度行い、見直しを細かく行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や早期退院に向けての支援、家族の宿泊支援や食事の配慮など臨機応変に対応している。また、退居者への支援や個別の墓参りなどの対応もみられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の意向を大切に決めて、受診時も適切に治療がうけられるように情報提供書や受診記録を活用し情報提供に努めるなど、良い関係を作っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、過去に事例もあり、本人や家族、かかりつけ医と相談し職員の共有も図っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管し、個人情報の保護方針を玄関に掲示している。日々のケアの中では利用者への言葉遣いや職員間の会話に配慮するように心がけている。毎月の個人情報委員会で研修や話し合いを行い、プライバシー保護の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。希望があれば、晩酌や喫煙もできる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月法人内の管理栄養士も参加する給食委員会で研修、嗜好・摂取量調査を行い、料理本を利用して利用者と相談しながら献立を考え、食欲に結びつける工夫をしている。また職員が一緒に食事をとることで楽しい食事がとれるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決まった入浴日があるが、それ以外の日でも入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけや好みのシャンプーを用意するなど気持ちよく楽しめる工夫がされている。また、敷地内に温泉がひかれた足湯があり、地域の方と交流しながら楽しむことができる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や洗濯、プランターでの野菜や花造り、梅干つくりなど、一人ひとりの生活歴や力を見つけ出し、支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から本人の気分や天候に応じて近くの馴染みの店に買い物や散歩などで屋外に出るように支援しているほか、定期的にドライブや地域行事への参加を支援するなど外出の機会を設けている。また、外気浴が気軽にできるよう門前にベンチを設置し、活用している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は、入居者の状態を把握し、入居者一人ひとりのサインを見逃さず、さりげなく一緒に散歩にでるなどの支援をしている。地域には広報誌により協力体制が出来上がっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアルを作成し、近隣や地域の方への協力を呼びかけ、夜間体制がふくまれた避難訓練を行っている。非常時の備蓄の管理もされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量、排泄量を個人ごとに記録し、スタッフ全員で把握している。また毎月の給食委員会の中で話し合い健康状態を把握した支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心やすらぐ家庭的な雰囲気がたどよい、生活感や季節感が感じられ、リビングは日差しが差し込みとても明るく、過ごしやすそうである。利用者は、和室やソファなど思い思いの場所でくつろぎ、居心地のよい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の写真をはじめ、趣味の品など利用者の馴染みの道具が多く見られる。利用者が自宅でくつろいでいるような気持ちにさせる配慮がなされている。		